

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
新庄市	赤坂地区(赤坂一、赤坂二、赤坂三集落)	令和3年3月18日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	139ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	78ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	16ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	4ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	29ha
(備考)	

2 対象地区の課題

赤坂集落の農家を中心として農業経営が行われているが、農業者の減少や高齢化、さらには大型機械導入を阻害する狭隘な農道や水位調整の困難な用廃兼用水路等により耕作条件が劣るため、思うように集積が進んでいない。農地整備事業の実施により生産性の向上を図り、中心経営体の育成と農地集積の促進を図る必要がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

赤坂地区の農地利用は、中心経営体である認定農業者等14経営体が担い、大豆、そばの生産は生産組合が担っていく。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
計	14経営体		89.0 ha		118.4 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

- 農地中間管理機構の活用方針
将来の経営農地の集約化を目指し、農業経営をリタイヤ・経営転換する人は、原則として農地を農地中間管理機構に貸し付けていく。
担い手の分散錯圖を解消するために利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- 作物生産に関する取組方針
収益性の高い「アスパラガス」や「にら」、「うるい」、「たらの芽」、などの園芸作物の生産に取り組む。
土地利用型作物である「大豆」、「そば」の生産拡大を目指す。
- 基盤整備への取組方針
生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備に取り組む。